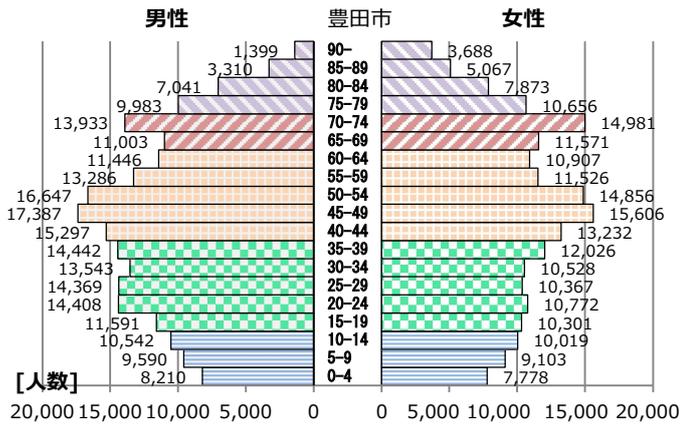


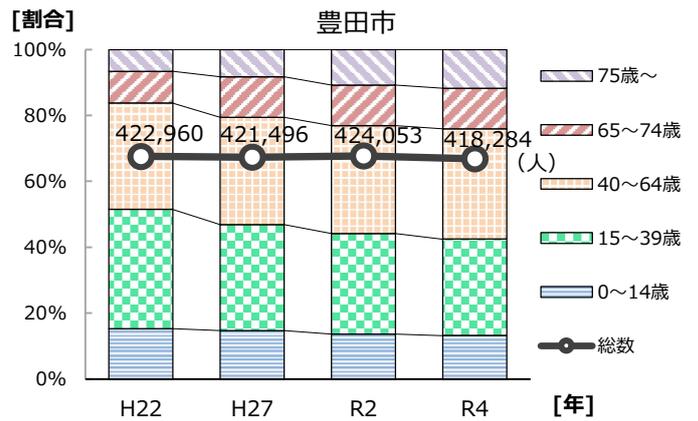
末野原中学校区 地域健康カルテ (令和4年度概要版)

● 豊田市の情報 ●

①男女別年齢階級別人口 (令和4年4月1日)



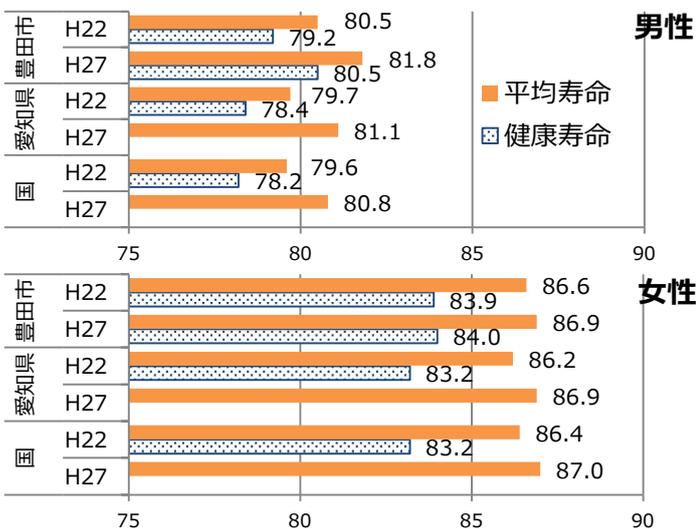
②人口推移 (各年4月1日)



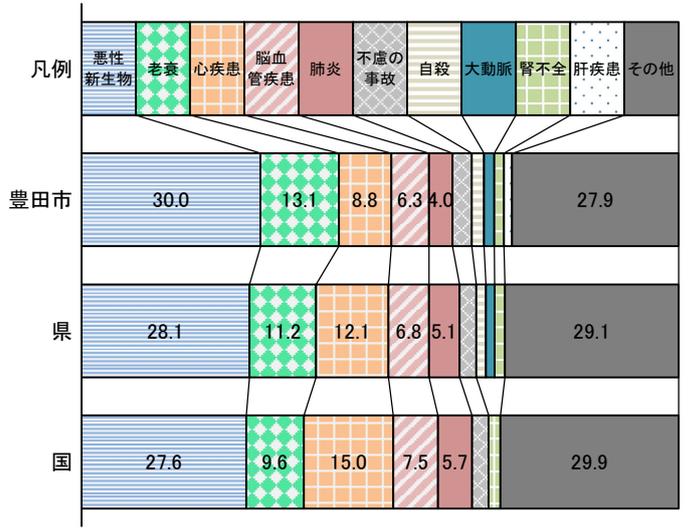
③人口構成 (令和4年4月1日)

・総人口：418,284人 (男性 217,427人、女性 200,857人) ・世帯数：183,262 ・高齢化率：24.0%
 ・要介護認定率：15.4% (令和4年10月1日) ・外国人：17,540人 (ブラジル、ベトナム、中国他)

④平均寿命と健康寿命

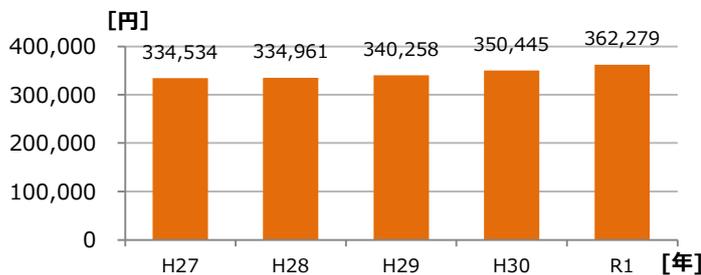


⑤主要死因別順位 (令和2年度)

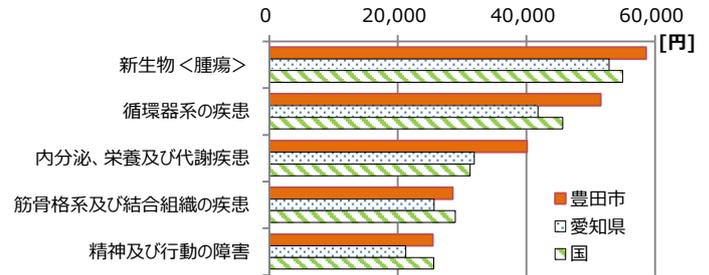


国民健康保険 医療費データ

⑥一人当たり医療費 (豊田市)

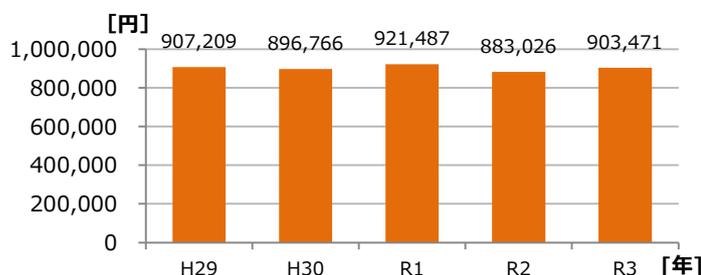


⑦一人当たり医療費疾病別上位5位 (令和3年度)

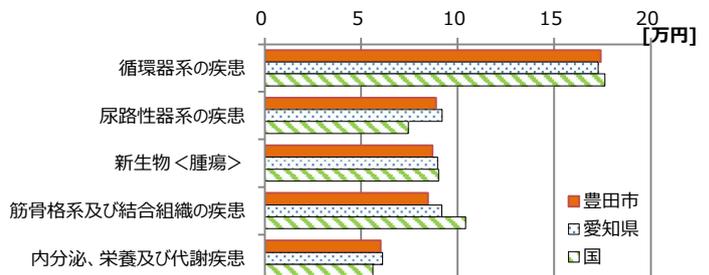


後期高齢者医療制度 医療費データ

⑧一人当たり医療費 (豊田市)

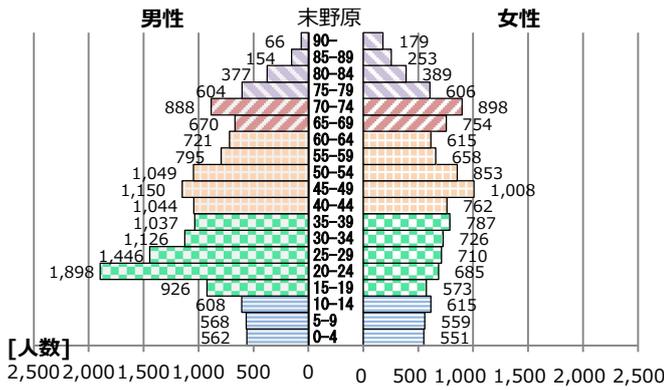


⑨一人当たり医療費疾病別上位5位 (令和3年度)

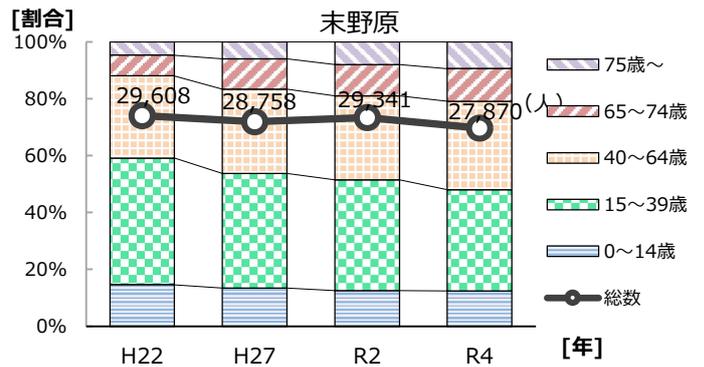


● 末野原地区の情報 ●

⑩男女別年齢階級別人口 (令和4年4月1日)



⑪人口推移 (各年4月1日)



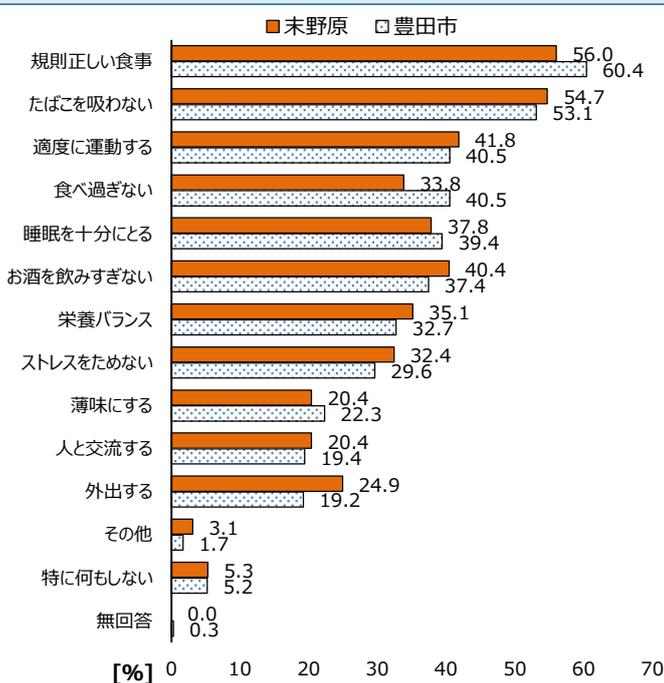
・総人口：27,870人（男性15,689人、女性12,181人） ・世帯数：13,617 ・高齢化率：20.9%
 ・要介護認定率：14%（令和4年10月1日） ・外国人：848人

⑫地域の組織やその活動 ※新型コロナウイルスの影響で、一部中止の事業もあります

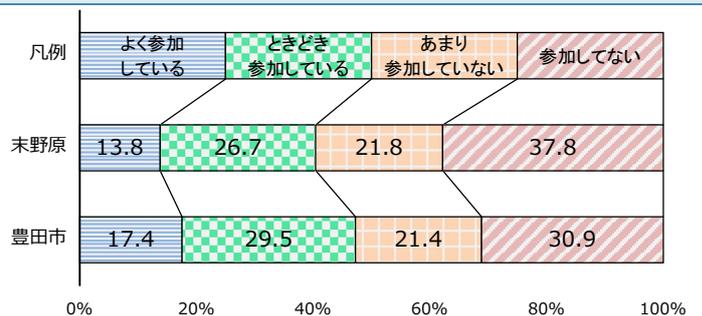
名称	内容等 (令和4年4月)
自治区数	・11自治区
地域課題解決事業	末野原キラッとあかるいまちづくりプロジェクト(防犯対策)、地域防災対策向上事業(防災対策)
交流館	・自主グループ43グループ（うち健康・スポーツは7グループ）
ヘルスサポートリーダー	・会員数8人 ・毎月第3火曜日に、交流館主催の「縁ジョイサロン」にて活動。また、ウォーキングイベントを交流館と共催 ・交流館に活動内容を掲示し、健康づくりの啓発を実施
高齢者クラブ	・9クラブ
ふれあいサロン	・9サロン
元気アップ教室 自主グループ	・自治区：豊栄町一区、永覚、永覚新町、大林町 ・それ以外：豊栄町一区ふれあいサロン(サロン)
その他	

市民意識調査(令和3年度)

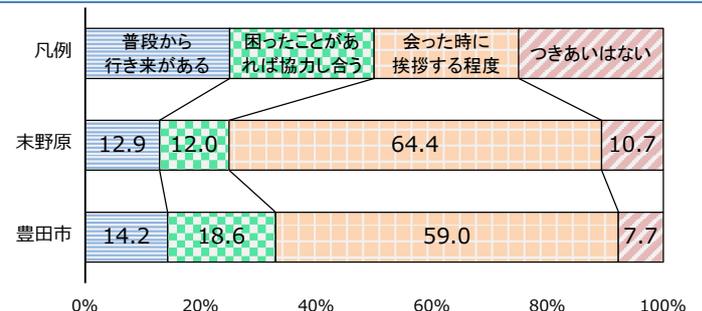
⑬健康づくりの取組内容



⑭自治区・地域活動への参加状況

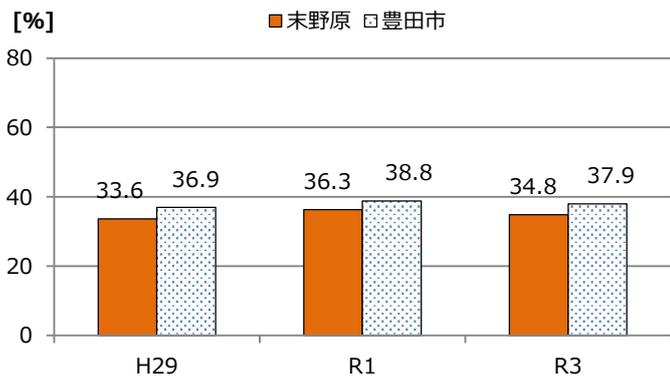


⑮実際の近所づきあい

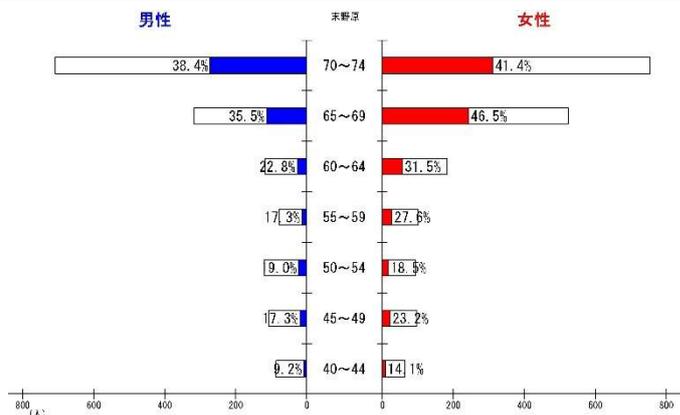


豊田市国民健康保険 特定健康診査(令和3年度)

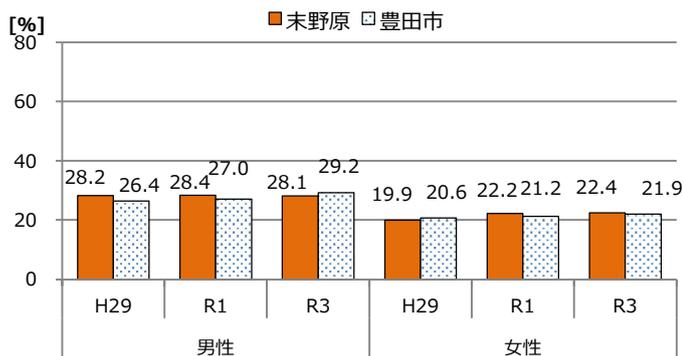
⑯健診受診率



⑰年齢別受診者数(対象者数 3,265 人,受診者数 1,136 人)

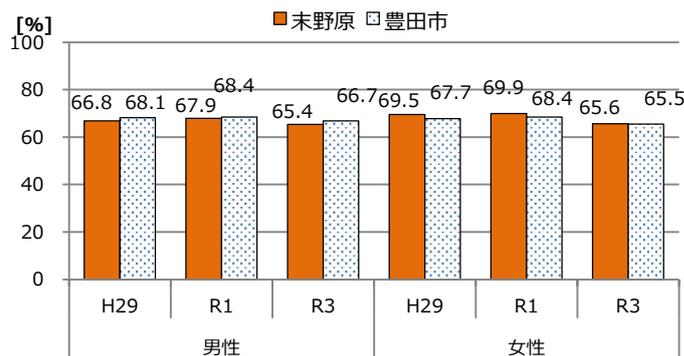


⑱BMI (25 以上)

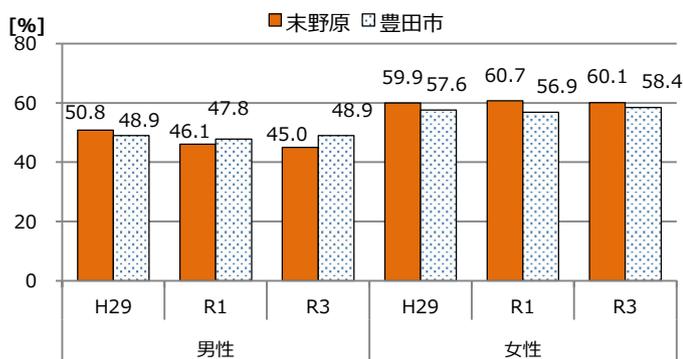


⑲HbA1c (5.6%以上)

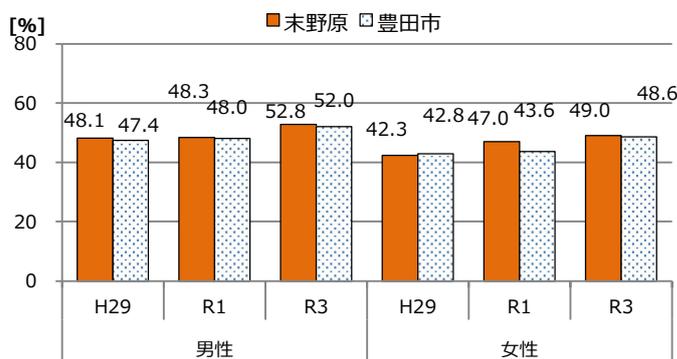
*糖尿病の指標の検査項目



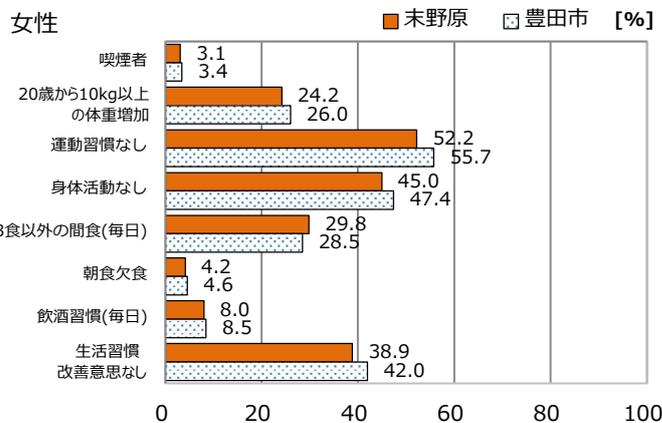
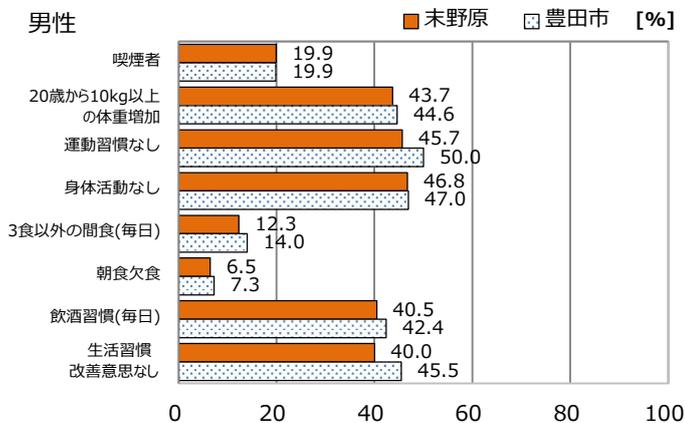
⑳LDL コレステロール (120mg/dl 以上)



㉑収縮期血圧 (130mmHg 以上)



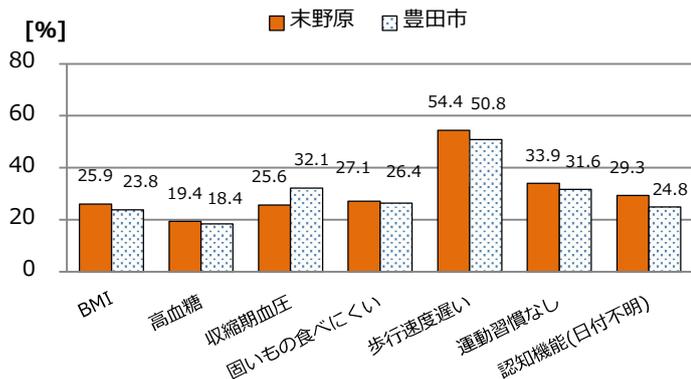
㉒問診



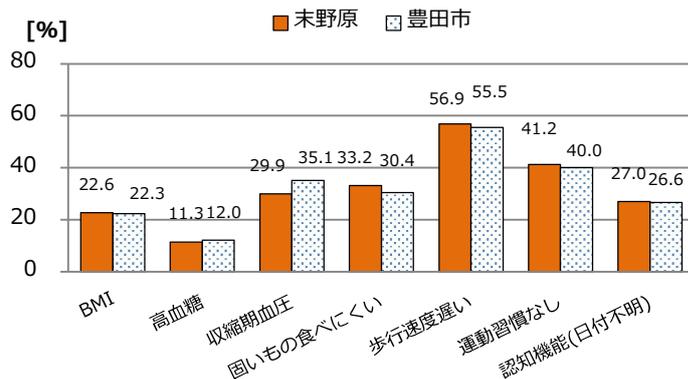
㉓国と比較して有意に差がある項目【年齢調整】

国と比べ高い項目	男性	生活習慣改善意思なし
	女性	HbA1c、生活習慣改善意思なし
国と比べ低い項目	男性	運動習慣なし、朝食欠食
	女性	喫煙、運動習慣なし、朝食欠食、飲酒習慣(毎日)

㉔男性



㉕女性



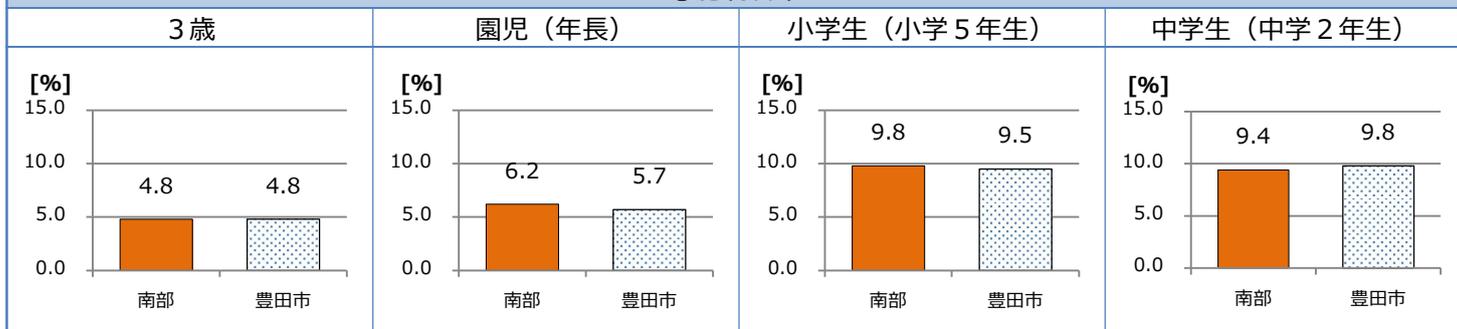
【検査項目の基準】 BMI : 25 以上 高血糖 : HbA1c 6.5%以上 収縮期血圧 : 140mmHg 以上

【地区の受診者数】 722 人(男性 351 人、女性 371 人)

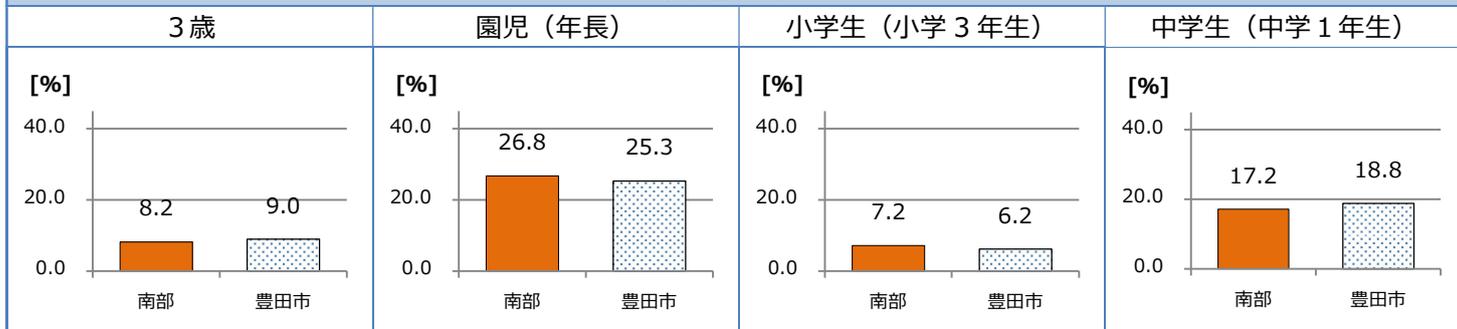
子ども 健康診査(令和3年度)

【南部】 上郷・末野原・高岡・前林・竜神・若園

㉖肥満者率



㉗う歯有者率



データから見る地区の特徴と課題

- ・国民健康保険特定健康診査の受診率は市よりも低いため、健診受診や健康づくりへの動機付け等、受診率向上に向けた取組が必要である。
- ・国民健康保険特定健康診査結果の年齢調整による国との比較では、男女とも「生活習慣改善意思なし」の割合が有意に高い。一方、男女とも「運動習慣なし」及び「朝食欠食」の割合が有意に低いことから、健康への意識づけのため、食生活や運動習慣等の正しい知識の普及啓発が必要である。
- ・高齢化率や要介護認定率は市より低い、後期高齢者医療制度健診結果では、男女の「運動習慣なし」及び「歩行速度遅い」の割合が高いことから、元気アップ教室等、運動習慣定着に向けた取組や、フレイル予防の啓発をする必要がある。
- ・市民意識調査の「健康づくりの取組内容」の取組率では、食事に関する取組項目の割合が市より低い。また自治区・地域活動への参加状況では、参加していない割合が市より高いことから、住民の興味関心を引くような健康教育の企画や、自治区や交流館等と協決してイベント情報の周知等が有効だと考えられる。